

令和5年2月15日

テタヌラ類に属する獣脚類恐竜の歯化石

平成21年(2009年)に福井県大野市下山の手取層群伊月層より発見された獣脚類恐竜の歯化石について、東京農工大学科学博物館の上田裕尋特任助教を中心とした研究グループが、最新のデータを基に形態計測及び分岐分析による研究を進めたところ、本標本がテタヌラ類^{*}に分類される恐竜のものであるという同定結果に至りました。この研究の成果は2023年1月に「Paleontological Research (パレオントロジカル・リサーチ) 誌(日本古生物学会発行の国際学術雑誌)」にて出版されました。

【研究の概要】

脊椎動物の骨格は、数百を超える骨や歯から構成されていますが、すべての骨格の化石がまとまって見つかることはほとんどなく、恐竜の化石も例外ではありません。日本の地層では、恐竜の歯化石が一本だけ単体で見つかることが多く、一本の歯から恐竜の種類を絞り込むことは容易ではありません。

福井県大野市の手取層群伊月層(約1億2700万年前;前期白亜紀)から発見された1本の肉食恐竜(獣脚類)の歯化石について、91個の歯の形質を用いた分岐分析および6個の計測値を用いた形態計測的解析を行って総合的に検討した結果、ティラノサウルス上科(Tyrannosauroidae)、アロサウルス上科(Allosauroidae)、またはピアトニツキーサウルス(Piatnitzkysaurus)の近縁種である可能性が高いことが示されました。これらが含まれる分類群はテタヌラ類^{*}(Tetanurae)と呼ばれています。

この歯の化石が産出した伊月層および周辺地域から産出した獣脚類化石と合わせて検討すると、白亜紀前期の福井県周辺では2種類以上の中型獣脚類が共存していた可能性があります。

※テタヌラ類

ケラトサウルス(*Ceratosaurus nasicornis*)よりも現生鳥類であるスズメ(*Passer montanus*)に近いすべての種を含む分類群(クレード)として定義される分類群で、ティラノサウルス上科やアロサウルス上科などの中生代の獣脚類に加えて、現生鳥類までを含む大きな分類群です。今回研究した標本は、歯の特徴に基づく分岐分析の結果を重視した場合には、アロサウルス上科またはティラノサウルス上科に属することが示唆されます。

【標本の情報】

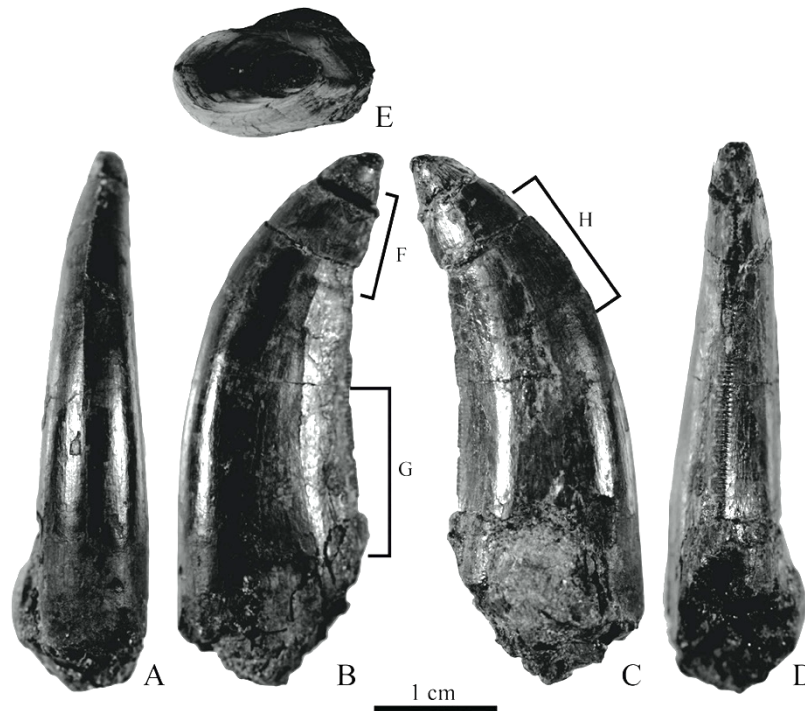
標本: 外側歯(歯冠高 約28 mm、歯冠底幅 約8 mm、歯冠底長 約14 mm)

発見地: 福井県大野市下山

地層名: 手取層群伊月層

時代: 約1億2700万年前(白亜紀前期)

所蔵先：大野市教育委員会（登録番号 OMFJ V-1）



（1本の歯の化石を5方向から撮影したもの）

この獣脚類恐竜の歯化石は、大野市歴史博物館にて、2023年3月26日（日）まで公開されています。大野市の報道発表は、以下のサイトからご覧いただけます。

https://www.city.ono.fukui.jp/kosodate/bunka-rekishi/kaseki/Tetanurae_ono.html

【発表雑誌】

雑誌名：Paleontological Research（日本古生物学会英文誌）

論文タイトル：「Morphometric and Cladistic Analyses of a Theropod Tooth from the Itsuki Formation of the Tetori Group in the Kuzuryu District, Ono City, Fukui Prefecture, Japan」[和訳：福井県大野市九頭竜地域の手取層群伊月層より産出した獣脚類の歯の形態計測的解析及び分岐分析]

巻号・ページ：vol. 27, no. 1, p. 51–72.

DOI: <https://doi.org/10.2517/PR210002>

著者： 上田裕尋（東京農工大学科学博物館 特任助教）

酒井佑輔（大野市教育委員会 主任学芸員）

真鍋 真（国立科学博物館 副館長）

對比地孝亘（国立科学博物館 研究主幹）

伊左治鎮司（千葉県立中央博物館 主任上席研究員）

大倉正敏（愛知県江南市）

論文出版日：2022年10月1日オンライン出版、2023年1月冊子版を発行

【関連する事業・研究課題】

千葉県立中央博物館普遍研究課題（伊左治）：微小化石に基づく貝類化石の分類及び古生態の研究

お問合せ先

千葉県立中央博物館 主任上席研究員 伊左治 鎮司

〒260-8682 千葉県千葉市中央区青葉町 955-2

TEL：043-265-3111

E-mail：isaji@chiba-muse.or.jp